

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析及び結果

我孫子市立布佐小学校

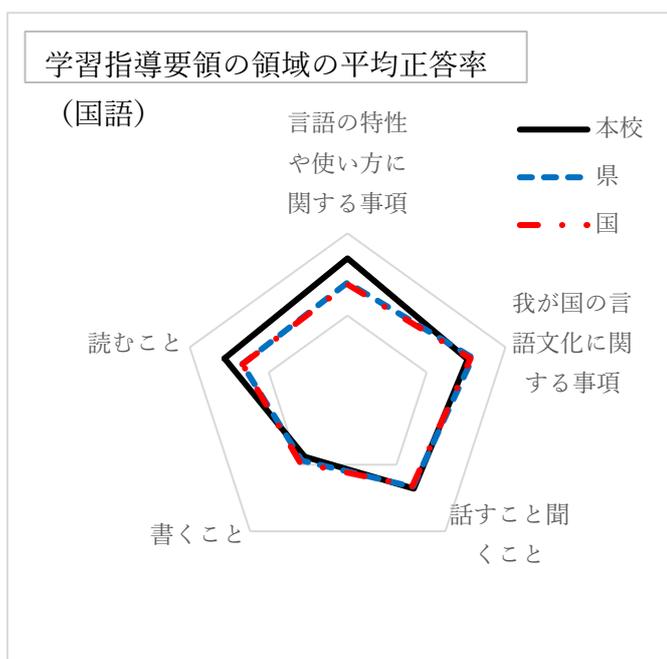
「教科」に関する調査について

国語

○全体の平均正答率では、全国平均を大きく上回っていた。特に知識及び技能の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」思考力、判断力、表現力等の「読むこと」では高水準であった。

△思考力、判断力、表現力等の「書くこと」は、やや平均を下回っており課題となっている。

「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」に関して苦手意識が見られた。



☆調査結果からの今後の取組について☆

- ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を考える
- ・自分の考えを書く活動を、学習の中に積極的に取り入れていく。
 - ・自分の考えをより正確に伝えられるように、豊かな表現力や語彙力をつけるような調べ活動を取り入れていく。
 - ・自身の考えの根拠を意識するように促していく。
 - ・文章を推敲したり他者から意見をもらったりすることで、自分の考えがきちんと文章に表れているかを確認する時間を設ける。

◎文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

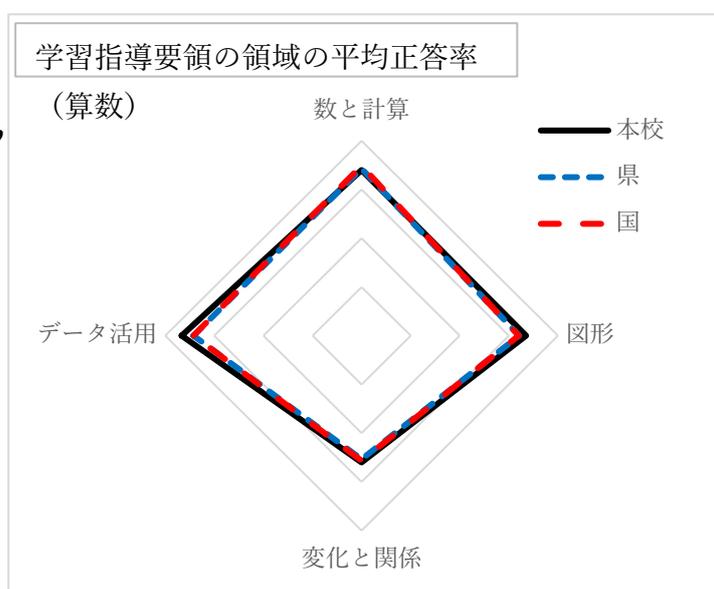
- ・互いに見合う活動を積極的に取り入れる
- ・よい表現や伝わりやすい構成を見つけ合い、掲示したり称賛したりする。
- ・伝わりやすい文章の構成や表現の仕方を児童に教えていく。

算数

○全体の平均正答率では、全国平均とほぼ同程度であった。「図形」「データの活用」の領域では、やや上回った結果が得られた。

△「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」

「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる」「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」に関しては、苦手意識が見られた。



☆調査結果からの今後の取組について☆

◎示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察できる。

- ・目的に応じて、必要な資料を収集したり、自分の考えをまとめたりする活動を取り入れていく。

- ・文章問題（目的）の意図を明確に掴む学習を取り入れていく。
- ・類題に取り組むようにする。

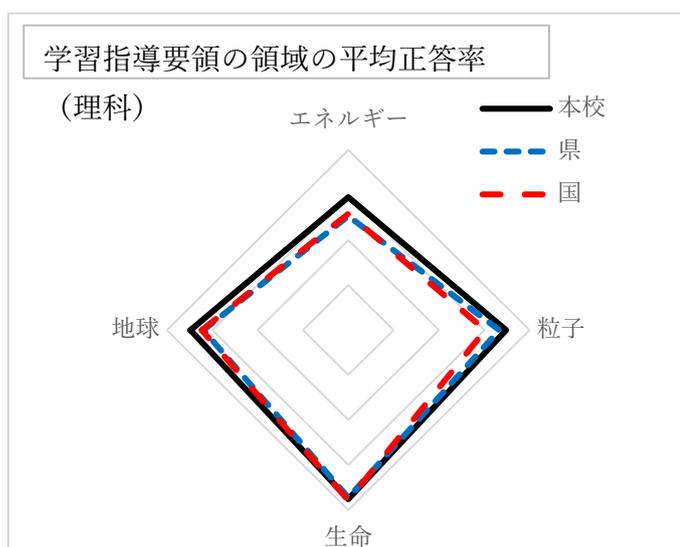
◎正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。

- ・パソコンを使ったプログラミング学習を取り入れていく。
- ・内角と外角の関係について図形と式とを関連付け、互いに話し合う活動を取り入れていく。
- ・様々な図形を取扱い、どの視点から見た角度を答えるのかを考える活動を取り入れていく。

理科

○全体の平均正答率では、全国平均をやや上回っていた。どの領域についても平均以上の理解力があつた。「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対する

まとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる」については、高水準であつた。



△「指示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「観察などで得た結果を、結果から言えることの視点で分析して、解釈し、自分の考えを

持つことができる」に関しては、苦手意識が見られた。

☆調査結果からの今後の取組について☆

- ◎指示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
- ・日頃の学習から、様々なものの見方・考え方を全体で共有する時間を確保していく。
- ・実験結果からの考察や観察からわかったことなどをノートに書いたり、他者と情報交換したりする時間を意識的に取り入れていく。

「自尊意識・生活習慣」に関する調査について

～児童に対する質問紙調査結果より～

○教科への関心・意欲・態度

- ・「国語への関心」は全国の調査結果と比べ上回っていた。国語の授業がよくわかると回答した児童は半数を超え、わからないと回答した児童は少なかった。
- ・「算数への関心」は全国の調査結果とほぼ同程度であった。算数の授業がわかると回答した児童が多く、昨年度のような二極化は見られなかった。
- ・「理科への関心」は全国の調査結果と比べ、やや下回っていた。しかし、理科の授業がよくわかると回答した児童が多く、学習に対する困り感はあまり感じられなかった。

○家庭学習や生活習慣

- ・家庭学習時間は全国の調査結果と比べ、多い傾向にある。今年度は半数近くの児童が2時間程度の学習時間を確保していた。
- ・生活習慣については、全国と同程度の回答であった。

○規範意識や自己有用感

- ・自分には良いところがあると回答した児童，学校は楽しいと回答した児童が9割以上いた。自己肯定感が高い。
- ・人の役に立つことに率先して取り組む姿勢が見られた。
- ・安心して学習に取り組むことができる環境であり，夢や目標を持っている児童の割合も多かった。